



美術工芸品修理に不可欠な原材料確保の取組

— 文化財の匠プロジェクトと企業立登録博物館の可能性 —



武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園

園長 野崎 香樹

2026.7.10

アジェンダ - 企業資源を社会資源へ -



- ① タケダ／京都薬用植物園の考え方と資源
- ② 文化財の匠プロジェクト
- ③ 登録博物館化
- ④ 企業立登録博物館の可能性

本日お伝えしたいこと

- ① 博物館資源は思いがけない社会課題の解決につながる
- ② 登録博物館制度は活動を制約するものではなく活動の価値を社会と共有する機会になり得る
- ③ 企業資源は社会資源になり得る



アジェンダ - 企業資源を社会資源へ -



- ① タケダ／京都薬用植物園の考え方と資源
- ② 文化財の匠プロジェクト
- ③ 登録博物館化
- ④ 企業立登録博物館の可能性

本日お伝えしたいこと

- ① 博物館資源は思いがけない社会課題の解決につながる
- ② 登録博物館制度は活動を制約するのではなく活動の価値を社会と共有する機会になり得る
- ③ 企業資源は社会資源になり得る



グローバルなバイオ医薬品企業



グローバル本社

東京 日本橋

グローバルハブ

**米国 マサチューセッツ州
ボストン地区 ケンブリッジ**

6

新規候補物質が
第3相臨床試験に
進展

グローバル拠点

約80 の国・地域

20以上 製造拠点

2 研究拠点

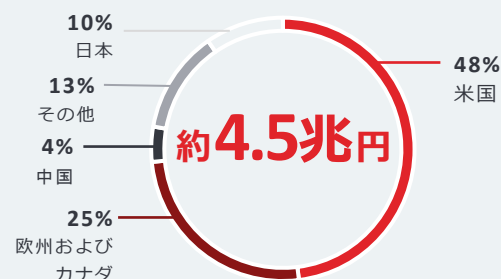
130以上 積極的な
パートナーシップ

革新的なアイデアを実現するために

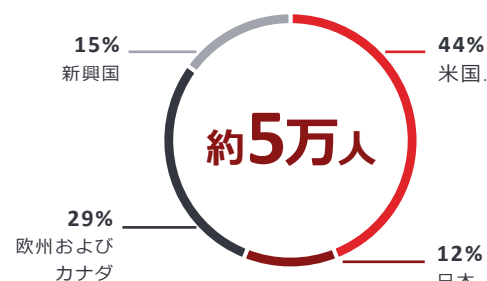
25カ国

Great Place To Work®認定

2025年度売上収益



2026年3月31日時点



2024年6月30日時点

創業

1781年

大阪 道修町

従業員

2026年4月時点（一部データを除く）



**OUR
VALUES**
WHAT GUIDES US

OUR BEHAVIORS
How we show up

パーパス (Purpose)

植物遺伝資源を利活用して地球の健康と、輝かしい未来に貢献する



守る



つなぐ



伝える

ビジョン (Vision)

世界中の人々と自然環境のために、生物多様性保全活動を推進しつづけます。生物多様性に働きかける3つのアクション
（「**守る**」、「**つなぐ**」、「**伝える**」）

京都薬用植物園（昭和8年開園）の概要



所在地：京都市左京区一乗寺 94,000 m²（東京ドーム約2個分）
（修学院離宮・曼殊院門跡・詩仙堂）

植物保有数： 約3,100種

薬用植物保有数： 約2,000種

絶滅危惧植物保有数： 270種
（国内希少野生動植物種数 23種）

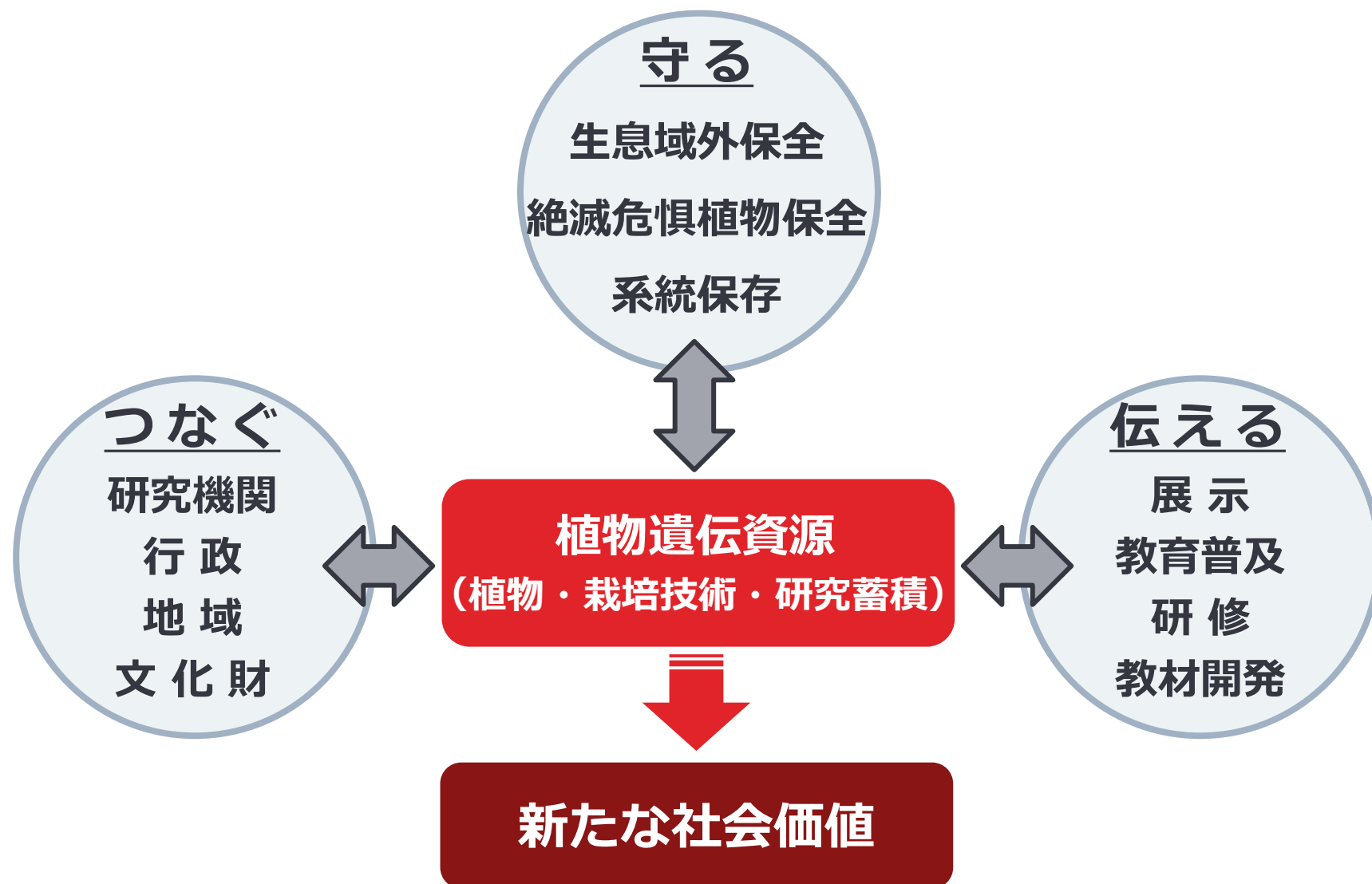
標本数：生薬 約 5,000点
 腊葉 約40,000点

2026年4月1日時点



2024年1月31日 博物館法第14条第2項の規定に基づき**登録博物館**に登録

植物遺伝資源が生み出す社会的価値



アジェンダ - 企業資源を社会資源へ -



- ① タケダ／京都薬用植物園の考え方と資源
- ② 文化財の匠プロジェクト
- ③ 登録博物館化
- ④ 企業立登録博物館の可能性

本日お伝えしたいこと

- ① 博物館資源は思いがけない社会課題の解決につながる
- ② 登録博物館制度は活動を制約するものではなく活動の価値を社会と共有する機会になり得る
- ③ 企業資源は社会資源になり得る



文化財の匠プロジェクト



文化財の持続可能な保存・継承体制の構築を
図るための5か年計画（令和4年度～令和8年度）



令和3年の新聞記事で
プロジェクトを知る

【重点的な取組内容】

- ① 文化財の保存・継承のための用具・
原材料の確保
- ② 文化財保存技術に係る人材養成と
修理等の拠点整備
- ③ 文化財を適正な修理周期で修理する
ための事業規模の確保



薬用植物保有数：約2,000種



- コウゾ・ムラサキ・アイ等の
特用作物・染料植物
- 植物園という性格上、少量多品目
を扱うのが得意
- 90年以上継承されている栽培技術

社会課題との出会い



当園の資源との接点が生まれる

文化財修理に必要な原材料と高い親和性

社会課題解決への第一歩 - 椿灰提供の取組 -



【重点的な取組内容】

- ① 文化財の保存・継承のための用具・原材料の確保
- ② 文化財保存技術に係る人材養成と修理等の拠点整備
- ③ 文化財を適正な修理周期で修理するための事業規模の確保

国宝修理装演師連盟
伝統技術伝承者協会
文化財修理表装裂継承協会



国宝修理装演師連盟HP

和紙製作・表装裂の染色の
ためのコウゾの煮熟に椿灰を使用

ツバキの系統保存

- 約10,000 m²のツバキ園に約500品種のツバキを立ち木で展示
- 60年以上にわたり保存&展示
- 成長を促す目的で整枝・剪定を実施
- 大量の枝葉が廃棄物として発生



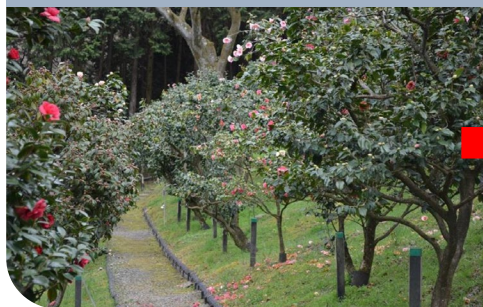
植物由来の材料

(椿灰) の提供



- これまで -

ツバキ園にて保全



整枝・剪定枝が発生

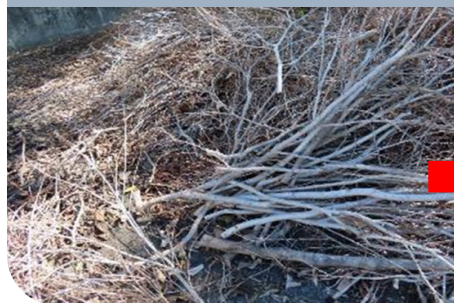


廃棄物として処分



- 美術工芸品保存修理用具・原材料管理等業務支援事業 -

資源として見直し



灰を作るというひと手間を加える
(想像以上に大変)



技術者への授与



ツバキの保全活動から生じる剪定枝を資源として捉え直し、
椿灰として活用することで、文化財保護という社会課題の解決に貢献

活動の広がりの中で見えてきた課題



当園が取り組んできた活動

- 生物多様性保全
- 教育普及
- 研究
- 文化財保護
- 外部機関との連携



感じていた課題

- 活動ごとの評価に留まりがち
- 活動同士のつながりが伝わりづらい
- 当園全体の役割が見えにくい
- 社会的意義を説明しづらい

転機 ⇒ 令和4年 博物館法改正 企業立も 登録対象へ



既存の活動の価値を社会の中で位置付けられる可能性

活動ではなく「価値の伝え方」が課題だった

アジェンダ - 企業資源を社会資源へ -



- ① タケダ／京都薬用植物園の考え方と資源
- ② 文化財の匠プロジェクト
- ③ 登録博物館化
- ④ 企業立登録博物館の可能性

本日お伝えしたいこと

- ① 博物館資源は思いがけない社会課題の解決につながる
- ② 登録博物館制度は活動を制約するものではなく活動の価値を社会と共有する機会になり得る
- ③ 企業資源は社会資源になり得る



当園が考えたこと

- 新しい活動を増やすことではない
- 既存の活動を整理する
- 活動の価値を社会と共有する



当園が持つ資源

- 植物遺伝資源
- 栽培技術
- 研究の蓄積
- 外部とのネットワーク



登録博物館化

社会的価値の可視化

生物多様性保全・教育普及・文化財保護・地域連携・・・

活動ではなく「価値を位置付ける」ための選択

アジェンダ - 企業資源を社会資源へ -



- ① タケダ／京都薬用植物園の考え方と資源
- ② 文化財の匠プロジェクト
- ③ 登録博物館化
- ④ 企業立登録博物館の可能性

本日お伝えしたいこと

- ① 博物館資源は思いがけない社会課題の解決につながる
- ② 登録博物館制度は活動を制約するものではなく活動の価値を社会と共有する機会になり得る
- ③ 企業資源は社会資源になり得る



本日お伝えしたかったこと

① 博物館資源は社会課題の解決につながる
文化財保護への貢献（文化財の匠プロジェクト）

② 登録博物館は価値を位置付ける仕組みである
活動の価値を社会と共有・取組の可視化

③ 企業資源は社会資源になり得る
植物資源・技術・人材・ネットワーク

社会価値の創出 ※ 生物多様性保全・教育普及・文化財保護・地域連携



企業価値の向上 ※ 非財務資本の向上・信頼の醸成・企業理念の実践

**企業立博物館・植物園には
社会価値と企業価値を両立できるポテンシャルがある**

ご清聴ありがとうございました



Better Health, Brighter Future